

第7次池田市総合計画（案）に対するご意見とそれに対する本市の考え方

1. 趣旨

令和5年度からの10年間の池田市のまちづくりの指針としての第7次池田市総合計画を策定するにあたって、広く市民のみなさまのご意見をお聞きするために、パブリックコメント手続を実施しました。

2. 提出期間

令和4年3月7日（月）～同月28日（月）

3. ご意見の提出状況

提出者数 18人

提出件数 18件

なお、計画案に対する賛否のみを表明するもの、計画案に関連のないもの及び計画案の技術的修正を求める内容にとどまるものについては、公表は行わず、件数に含んでいません。

No.	ご意見の内容	市の考え方
1	<p>市立図書館が駅前に移転したために、不便になったことが一つあります。それは、自習室が無いことです。かつて五月山にあった図書館では、自習室があり学生たち、そして市民の勉強の場として、親しまれてきました。しかし、駅前に移転してからは、自習室が無いため、現在では図書館前のカフェで勉強する人が大勢います。図書館は本を読む場であると同時に、学ぶ場でもあると思います。ぜひ可能であれば自習室の設置を検討していただけないでしょうか？(図書館に限らず公民館などでも構いません)計画の概要②から、今後教育環境推進にも力を入れると拝見したため、提案させていただきました。よろしくお願い致します。</p>	<p>自習室についてのお問い合わせやご意見については、池田駅前に図書館が移転した当初よりいただいております。現在、図書館や中央公民館等社会教育施設では、スペースに限りがあり、新たな場所の確保が難しく、自習室を設置しておりません。今後、様々なご意見を参考に場所等の確保が可能かどうかも踏まえ、考えていきます。</p>
2	<p>第7次池田市総合計画(案)などが募集されている事もっと1人1人に届くような告知が必要かと思えます。よろしく願います。</p>	<p>第7次池田市総合計画のキャッチフレーズ(将来像)とパブリックコメントの募集については、広報いけだの他、本市ホームページやSNSをはじめとするさまざまな媒体を活用し、より多くのご意見等をいただけるよう努めてきました。今後も、ご意見を参考に、より一層、第7次池田市総合計画そのものを含む幅広い情報を市民をはじめとするみなさまにお届けできるよう、効果的な情報発信に取り組めます。</p>
3	<p>事前のアンケート調査で、『住みやすいと思う人』が8割を超えていたと思いますが、間違いなく「いい町」であるのに、『住みたいまち』ランキングがそれほど高くないというのは、ある意味損をしているということだと思います。逆に言うと、正確な情報発信をすれば化ける可能性があるということになります。ただ、大事なのは、「どう化けるか」だと思います。例えば、今10万数千人の人口を12万~13万人にすることが目標なのか？と言うと、遊休地が目立つ過疎地の自治体ならまだしも、コンパクトな市域に居住人口が集約されている本市において、あまり有効な施策であるとは思いません。であれば、大事なのはやはり『ブランディング』と、その的確なブランディングに基づく『シ</p>	<p>ご意見のとおり、まちのブランディングやこれをシビックプライドの醸成につなげることは重要と考えています。また、実際の住みやすさとまちのイメージの乖離部分に本市のポテンシャルが存在すると捉え、第7次池田市総合計画では、1本目の施策の柱に「価値を高め発信するまちづくり」を位置付け、シティプロモーションや観光を含むまちのにぎわいなどの取組を盛り込んでいます。計画期間においては、まちの住みやすさや豊かな自然環境等の本市の魅力を広く発信し、まちへの愛着に醸成につなげることで、市民をはじめとするみなさまとともにまちづくりを進める機運を高めていきます。</p>

	<p>ビックプライド』の醸成だと思えます。ブランディングと言うと、どうしても『グルメ』『リゾート』『海・自然』などが先行しますが、本市には、それになじむような資源はありません。しかし、他市には絶対のないものがあります。それは、ダイハツ・阪急・日清と言った世界的企業の創業や歴史に大きなゆかりがあり、それぞれの歴史が学べるミュージアムが存在すること。言い換えれば、世界的企業が根拠地にしようと思う魅力が本市にはあったということになると思えます。コロナ禍で、ワーケーションという観点から、宿泊と現地での体験・学びを通して現地の人と交流をするという新たな観光スタイルが生まれました。この観光スタイル、『新たな』ものであることは間違いないのですが、実は、既存の観光施設や北部細河地域の PR、そして本市で事業を営む人と来訪者との交流が核となっています。つまり、コロナ前からあったものをリブランディングしている取組みであるといえると思えます。逆に言うと、コロナ前から池田市が進めようとしていたことが、コロナ前は『観光は大規模集客が大事』という観点からマイナーだったものが、コロナ禍で『密を避けたマイクロツーリズム』や『近場の自然』が注目される形になり、社会環境による時代の要請が、本市の観光の身の丈に合った取組みに近づいてきているという状況だと思えます。結論としては、繰り返しになりますが、大事なのはやはり『ブランディング』と、その的確なブランディングに基づく『ビックプライド』の醸成であり、そのツールとして、観光という対外的な施策、そしてそのほかにも市民の住みやすさを進化させるような、福祉・教育・子育て等、様々な市民に向けた施策をパッケージとして計画を作っていくという視点を持つことが重要であると思えます。</p>	
4	<p>6 ページ③⑥豊かな自然環境にあるがゴミがよく落ちています。歩きタバコ、ゴミのポイ捨ては禁止してほしい。またスーパーの買い物カートを店の外にまで持ち出し、バス停などに置いて帰る老人が多い。市民によるまちづくりは、このような些細なことでもマナーを守ることが第一前提だと思う。</p>	<p>池田市美しいまち推進条例に基づき、たばこの吸い殻や空き缶等のポイ捨て、ペットのふんの放置、落書き行為等を禁止し、市内の環境美化を推進しています。禁止行為の周知のため、各種啓発看板の配布や、広報・ホームページでの啓発に努めてまいります。</p>

		ご意見にあるようなマナーに関する身近な問題については、あらゆる施策を通じる基本的な考え方のひとつに「SDGsの推進」を位置付け、その普及を図ることによって、誰にとっても住みやすいまちの実現を図っていきます。
5	池田市出身の有名人：田中裕子、永井一郎、森山大道など、池田市生まれの人たちの功績がわかる展示場があればいいと思いました。声優ファンが訪れたい街へ。モノクロ写真ファンが訪れたい街へ。声優イベントやモノクロ写真イベントなどを積極的に行なっていくと、いままでとは違った盛り上がり方をするのは？	ご意見のとおり、本市にゆかりのある著名な人々をはじめとする本市ならではの魅力は、まちのにぎわい創出につながる大切な資源と認識しています。いただいたご意見は、計画期間における具体的事業の展開にあたっての参考とさせていただきます。
6	4つのビジョンと、3つの視点が、それぞれ素晴らしいのですが、それらが一つのイメージに収斂していくには、やや煩雑な気も致します。だからこそそのキャッチフレーズなのでしょう。	まちのキャッチフレーズ（将来像）の設定にあたっては、「10年後にこういう池田市になってほしい」という姿を簡潔に表したものであると同時に、まちの将来イメージやまちづくりの進め方といった第7次総合計画の内容と調和するようにします。
7	個別の施策ごとに該当するSDGsが説明されていましたが、食傷気味に感じたため、いくつかの要素に重点を絞って説明した方が分かりやすいのではないかと感じました。（おそらく、一般の人はSDGsの細かな内容を知らないと思うので）	SDGsを含む新出の用語や専門用語などについては、脚注などにその解説を掲載します。
8	長く池田に住む人が、池田の魅力に気が付き、誇りが持てるようになる活動を期待します。池田の魅力を知っている転入者が、受け入れられやすい雰囲気づくりや仕組みづくりに期待します。特定の自走できる人だけに負担がかからない仕組み作り、誰もが参加しやすい仕組みづくりに期待します。役所がプラットフォーム機能となることに期待します。Web自治会、Web市民会議、Web文化専門部会（勉強会）など、いつでもWebで交流や意見を交換できる仕組みと駅前などで、リアルにゆったりと年代を超えて誰もが気軽に交流できる場ができると楽しみと可能性とにぎわいが増えそうです。皆で作っていきたいです。	ご意見のとおり、まちづくりに参画する人々や団体をつなぐためのプラットフォームづくりは、行政の重要な役割のひとつであると認識しており、前期基本計画における「みんなで取り組むまちづくり」にそのための考え方を盛り込んでいます。計画期間においては、市民をはじめとするみなさまとともにまちづくりを進める機運の醸成につながる具体的施策の展開に努めます。
9	1 全体の枠組み設定に関すること 1. 都市の将来像の設定に関する事項（p.8～9、15 関連）について	基本構想におけるまちの将来イメージの「価値を高め発信するまち」については、まちの特徴の「②「住みやすい都市」と「住みたい都市」のギャップ」のように、実際

(視点) 総合計画の視線は誰に向けたものか？！

(1) 総合計画冒頭で「すみやすい」、「すんでみたい」、「すんでよかった」と感じられる都市であり続けるための実現化方策等を明らかにする計画であると規定し、基本構想において、めざす都市の将来像が4点設定されているが、その①において、池田市民ではなく特に市域外の国民へのアピールのようなものに重点がおかれた設定と判断でき問題であると判断する。池田市の人口構成等を反映した計画とすべきである。

(2) 本市の年齢別人口構成を分析してみると、2021年データで、10歳代17%、20～40歳代36%、50歳以上47%である。すなわち、本計画の最終年度である10年後には、高齢者予備軍である50歳代を含めて約半数を高齢者が占めることになるということである。また、高齢化率をみてみると、2021年度データで全国平均29%、本市33%であり、全国平均を上回る状況である。他市に先駆け高齢化対応に取り組むべき状況にあり、総合計画の最重要ポイントの1つと考えるべきである。

(3) また、人口増を図りたいとする視点から、P6下段部に記述がある都市の人気度としての民間調査などを気にしているのか？例えば、R社の「住みたい都市ランキング」などは、20～49歳を調査対象としており、結果として、ランキング上位には、関西有数の商業・業務都市(西宮市、大阪市北区等)が並んでいるが、都市の属性も本市とは大きく異なり比較対照するのは的確ではないと考える。なお、上記ランキングの中に吹田市の名が見えるが、これは、「北大阪健康医療都市」としてのまちづくりが評価されているのではないかと考える。また、人口増をめざす視点からは、最近人口増で有名な千葉県流山市のまちづくりなどが参考になると思うが、同市では、つくばエクスプレス沿線開発の一環として、民間事業者と行政が協働したまちづくりに取り組み、結果として子育て世代を中心に大きな支持を得ている。上記で述べた、吹田市、流山市の事例は大規模開発と連動したものであるが、特徴ある「まちづく

の住みやすさとまちのイメージのかい離部分に本市のポテンシャルが存在すると捉え、市外への発信も含めた形で表現しています。また、多くの人々から発信されるまちになるためには、まず市民のみなさまに満足していただくことが重要と考えており、住みやすさの向上やまちの魅力をつくる人々の定着を通じて生まれる愛着によって、市内外にファンを増やす姿勢を示しています。

高齢化については、ご指摘のとおり、今後さらに深刻化することが見込まれます。そして、このような状況は、「3いきいきと暮らし続けられるまち」に位置付けた福祉関係施策だけではなく、他の分野においても背景として踏まえ、その対応に向けた取組を盛り込んでいます。

民間の調査期間による「住みよさランキング」などについては、基本構想における人口目標のように、今後、持続可能な都市経営を実現していくためには、市外からの移住の促進やまちづくり人口の拡大が必要であることから、これらの課題を考えるための指標のひとつとして活用したものです。

まちの将来イメージについては、本市が計画期間中に取り込むことを網羅的に表現できるものとして設定したものです。そして、まちのキャッチフレーズ(将来像)は、すべての人々で共有するために年齢別での設定は行っていません。また、まちのキャッチフレーズ(将来像)を設定するにあたっては、「10年後にこういう池田市になってほしい」という姿を簡潔に表したものであると同時に、まちの将来イメージやまちづくりの進め方といった第7次総合計画の内容と調和するようにします。

市民や事業者の役割については、前期基本計画における「市民の取組」のほか、各施策における「主な取組の方針」においては、分野に応じて市民や事業者など様々な主体と連携した取組を盛り込んでいます。

本市では、国土交通省が推進している「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくりに賛同し、令和元年8月より「ウォーカブル推進都市」を表明しており、現在、池田駅周辺エリアを対象に、「いけだ駅前活性化プロジェクト」として、まちなかウォーカブルの推進に向け、道路、公園等の公共空間や空き空間などの活用方法について、市民、地権者、民間事業者等の方々と検討を進めているところです。検討会議では、

り」を実践することによって都市魅力度・価値を増やし、人気度も上昇させており、そのようなロジックで考えるべきである。

(4) 『「すみやすい」「すんでみたい」「すんでよかった」と感じるまち』と都市の将来像として設定した②～④の関係がわからない。適当に言葉を並べてみたというのでは、ダメだろう。「都市の将来像」とそれに向けた「まちづくり」の方向性をはっきりさせることが重要である。そのような視点に立ち、対象年齢別にまちのあるべき将来像を設定してみると、まちづくりの方向性が見えてくるのではないか。

(5) 結論前述したとおり、本市においては、高齢者対応施策を論ぜず将来計画を立てることは不可能であり、逃げずにきちんと議論をしてもらいたい。地域包括ケアシステムの充実が施策の主軸であるのならば、そのような将来像を明示すべきである。なお、福祉施策と都市政策の連携などによるまちづくりプランを後ほど提案したい。

2. 全体を通したの表現の仕方について(視点)行動主体の明確化実現化にむけて行動する主体がはっきりするような構成にするべきではないか。行政は何を頑張り、市民、事業者には何を頑張ってもらいたいのか分かる構成にするべきではないか。

2 提案事項

1. 提案の背景(まちづくりの方向性)

(1) 国土交通省の都市政策においても提起されていることであるが、今後まちづくりの方向性として「人間中心の豊かな生活の実現」を目指し、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を形成していくべきであると考え。

(2) 一方、前述したように高齢化が進む本市のいては、福祉的視点から高齢者のフレイル予防(心身ともに)等のために活動しやすい環境(抵抗要因の排除)の確保が望まれる。結果、医療費の低減にも繋がると期待できる。

地域の方が地域の中で日常を楽しめることが重要であるとし、様々な意見を出し合いながら駅周辺エリアの将来像を示す「未来ビジョン」の策定を進めており、いただいたご意見につきましても、議論していきたいと思えます。なお、検討会議への参加は随時募集しておりますので、お気軽にお問合せください。

具体的なご提案については、分野別計画の進捗や事業の立案にあたっての参考とさせていただきます。

	<p>(3) また、本市には能勢街道をはじめとする旧街道など歴史的な資産や五月山、猪名川のような自然遺産、更にはラーメン記念館、逸翁美術館、動物園等の文化レクリエーション施設など、魅力的な資産が多数存在する。</p> <p>(4) 結論本市に存する資産に新たな価値・魅力を付加し、前述の(1)、(2)、(3)を連携させつつネットワーク化することによって魅力的な歩きとなるまちなか形成が期待できる。これは、域外からの交流人口の増加にも寄与するものと考えられる。</p> <p>2. 具体的施策（都市政策の動向でもある）</p> <p>(1) まちづくりテーマ</p> <p>テーマ1：歩いて暮らせるまちづくり⇒ウォークアブルシティ</p> <p>テーマ2：公共空間の付加価値化⇒プレイスメイキング【キャッチフレーズ】</p> <p>歩いて健康になるまち→『ウォークアブルウェルネスタウン』</p> <p>(2) 施策の展開イメージ</p> <p>①健康・医療施策との連携・「健康まち歩き」支援・・・施策・休憩場所・ラジオ体操会場等をネットワーク化</p> <p>②文化レクリエーション施設との連携・・・来街者向けイベントの開催等</p> <p>(3) 実践のポイント・徹底した安全で快適な歩行空間の確保</p>	
10	<p>「住みやすい」「住んでみたい」「住んでよかった」と思える街を目指されているのが、気に入りました。結婚して、どこに住んだらいいかと迷ったときに、池田市に住みたいと思い、どこで楽しく過ごせるかと迷ったときに池田市に行こうと思い、どこで余生を過ごし、終の棲家にするかと迷ったときに池田市に住もうと思う街にしてほしい。</p>	<p>基本構想の序論の冒頭の「住みやすい」、「住んでみたい」、「住んでよかった」という記載は、住んでいる人々にその住みよさを実感してもらうだけでなく、ご意見のように、引っ越し先を検討時などのさまざまな場面で思い浮かべ、そして選んでもらえるまちをめざす趣旨で表現したものです。計画期間においては、そのための具体的施策を立案し、まちづくりを進めてまいります。</p>
11	<p>池田の街の発展、活性化には「商売人」の盛り上がりが必要なのでは、と考えています。地元根ざす企業や飲食店や小売店が益々元気になれば街に活気が溢れ、税収もアップして、街に対していろんな投資が可能になると思い</p>	<p>ご意見のとおり、地域経済の活性化には、商工業の維持・成長の支援や起業の促進が重要であると考えています。「コロナ禍」からの回復・新しい生活様式に則した産業活動を支援し、商工業の維持・成長の支援や起業の促進に取り組むなど地域経済の活性化を進めるとともに、先進性や独自性のある企業を育成するほか、「いけだピアま</p>

	<p>ます。若い世代の方々が池田の街で商売をしやすい環境作りも大切ではないのか、と考えます。</p>	<p>るセンター」の企業育成室及びコワーキングスペースを活用し、創業の支援と他業種交流の促進を図っていきます。</p>
12	<p>貴市におかれては、有象無象の混乱期を乗り越え、本来の立ち位置である住民本位のまちづくりを再加速すべき今この時に、「第7次池田市総合計画」を策定される労を称えるとともに、謹んで敬意を表します。</p> <p>さて貴市では、令和2年12月に、市の全ての計画に指針を与える最上位計画である「池田市国土強靱化地域計画」を策定されました。当計画は、総合計画と共に、全ての分野別計画に指針を与える『アンブレラ計画』として、重厚なテーマを包含しております。</p> <p>総合計画が、まちづくりの目標を定めその実現方法に主眼を置くのに対し、国土強靱化地域計画では、その実現を阻害するすべての脅威を排除または局限することに主眼を置き、両計画が表裏一体として連携しながら都市経営の両輪として市の発展を牽引する旨、謳われております。これらは、「池田市みんなでつくるまちの基本条例」の主旨に則り、市役所、市議会、市民、市内事業者等の意見を総合・集約化したものと言えます。</p> <p>かかる観点から、「第7次池田市総合計画（案）」に、「国土強靱化地域計画」で確立したまちづくりの考え方、すなわち両輪たる『アンブレラ計画』の内容が反映されていない点に、一抹の不安と疑問を感じます。脅威の多様化が加速する昨今、国を挙げて取り組んでいる『国土強靱化』について、総合計画に一切記載されない状態は、今日の国際情勢に鑑みてもアンバランスに思えてなりません。</p> <p>起きてはならない最悪の事態を想定し、脆弱性を可能な限り排除することで、強くしなやかなまちづくりに資すべく、「池田市国土強靱化地域計画」の内容を追加記載されますよう、意見表明させていただきます。</p>	<p>ご指摘のとおり、総合計画と国土強靱化地域計画は、それぞれ全分野にまたがるアンブレラ計画として位置付けており、この考え方は、第7次池田市総合計画においても変更するものではありません。ご意見を踏まえ、基本構想の序論において、「強靱な社会の実現」に関する記述を加えます。</p>

	<p>末筆となりましたが、貴市における「第7次池田市総合計画」が有益な計画となりますよう祈念するとともに、本計画に携わってこられた皆様のご活躍・ご多幸を、心よりお祈り申し上げます。</p>	
13	<p>池田市は縦に長い地形で、半分以上が山。緑豊かな場所である反面、坂道も多い。私鉄の駅は池田と石橋の2つで、駅から離れた場所は、阪急バスが通ってはいても、収益的にも辛いところには届きません。高齢者だけでなく、全ての世代が使える、小さな電動コミュニティバスなどを走らせて欲しいと思います。バスの走っていないところ、バス停に行くまで坂道がきつところが多い山ありますから。</p>	<p>市内の移動は、主に路線バス及びタクシーなどの民間公共交通事業者が主体となって交通ネットワークを形成していますが、利用者の減少に伴い路線維持が厳しい状況にあります。今後も、交通事業者による運行サービスを維持するとともに、民間事業者、池田市及び市民が協力し移動しやすい環境の確保に努めていきます。</p>
14	<p>■第2部基本構想 1.1 めざすまちの将来像 ■豊かな自然環境や教育環境などの多様な魅力を最大限にいかすまちづくり ■25(2)子どもと大人の未来を育てるまちづくり・子ども同士のコミュニケーションが不足し、■多様な体験を積み重ねる機会が減少している。個別最適な学びと協働的な学びが求められる地産地消と資源循環をめざし、できたら地域の農協なども協力して、公立小学校や学校給食に「食育」や「市内農業の育成」という観点から、市内でとれた地場野菜等をできるだけ多く取り入れたり、学校の授業で農家や林業の現場に参加したり、また市民も食料品を扱う地域店舗において地場野菜など購入できるようにし、市域内で農産物経済が少しでもまわるといいなと考えます。(これはフードマイレージの視点からも温暖化防止につながると思います) ■1.4 土地利用の方針&2.2 施策ごとの取組 19 脱炭素・循環型社会の推進 街路樹として果実のなる樹木を植え、いつでもだれでも手に取って食べられるような街路・通りにするのはどうでしょうか。市民の憩える木陰の多い街となり、食料が街に生っていることで安心があります(笑) また、細河の植木業の方々の継続的な仕事が生まれることで少しでも園芸振興の維持に寄与でき、緑の都市環境、脱炭素・循環型の持続可能な社会環境の推進にもなり、何</p>	<p>前期基本計画において、学校給食における食育は「学校教育の充実」、農園芸の振興や農産物の地産地消については「都市活力の維持・活性化」、再生可能エネルギーの活用は「環境共創」のまちづくり」にそれぞれ位置付けています。そして、これらの施策を推進するにあたっては、ご意見にある学校給食における地産地消のような施策間の連携も図っていきます。</p> <p>市街地からの五月山の眺望や、細河地域の田園風景をはじめとする本市の良好な景観形成・保全を図るため、現在、景観法に基づく市独自の景観計画の策定に向けた検討を進めているところです。良好な景観形成・保全に向けては、ご指摘のとおり、景観に関心を持っていただくことが重要であるため、意識啓発に向けた取組みについても、検討して参ります。</p> <p>池田駅周辺では「いけだ駅前活性化プロジェクト」として、まちなかウォークブルの推進に向け、道路、公園等の公共空間や空き空間などの活用方法について、市民、地権者、民間事業者等の方々と検討を進めているところです。検討会議では、地域の方が地域の中で日常を楽しめることが重要であるとし、様々な意見を出し合いながら駅周辺エリアの将来像を示す「未来ビジョン」の策定を進めており、いただいたご意見につきましても、議論していきたいと思っております。なお、検討会議への参加は随時募集しておりますので、お気軽にお問合せください。</p>

より市の話題づくりになるかもしれません。CO排出量削減に向け、再生可能エネルギー由来の電力の使用についても検討するとのことで、ぜひ小型水力発電も推進してほしいと思います。(設置や補修が簡単で安価な製品も現在は多い)住民や国交省などとの水利権のややこしそうな交渉もがんばってほしいと思います。(生駒市のような再エネ使用の自治体による電力会社ができるとう嬉しいです)

■20施策の柱の名称(1)価値を高め発信するまちづくり(2)地域特性をいかしたまちづくり■池田駅周辺ではマンション建設が進み、市街地からの五月山の眺望阻害などの問題も顕在化している■良好な生活環境や地域コミュニティが維持形成されるよう地域主体のまちづくり活動や地域独自のルール■づくりを進める。地域の景観に関心を持ち景観スポットの発掘や情報発信、景観に配慮した活動を進める今ある地域の景観を守る条例などを策定、制定してほしいです。去年、住宅街にポツンと背の高いマンションが建ちました。突然の告知のため住民の反対も間に合いませんでした(ちなみに我が家の庭には朝日が差さなくなりなくなりました)私は夕方の散歩の途中の坂道で見る川西市方面へと沈んでゆく夕陽の美しさにいつも魅せられます。人口減少はこれからも日本全国で続くので、競合する都市間で建ち過ぎたマンションもいずれ空き家となり問題になっていくのではないのでしょうか。■まちなかの魅力づくり「まちなかウォークブル」の推進やエリア価値向上による多様な人材の集積や■投資を惹きつけるまちづくりをめざし、イベント等の社会実験も踏まえたソフト事業と使う側の視点に立ち■市民の取組・地域住民に役立つ情報の発信や市民が交流できる図書館づくりに取り組む市民が気軽にいつでも集まれる公共の「広場」がもっとあれば素敵だなと思います。通りがかりの人が立ち止まって歌を聞いたり、踊りや芝居をみたり語り合ったりできる、パフォーマンスする人も自然と集まってくるような出会いの場です。それには、がんがら祭りのときにのように道路を時どき封鎖して、市民が考えたイベ

ご意見のように、時代の変化や人々の価値観の多様化がまちづくりに参画する人々や団体同士のつながりに影響を与えている中、行政は、活動の支援だけでなくこのようなつながりづくりを進めていく必要があると考えており、そのための考え方を前期基本計画における「みんなで取り組むまちづくり」に盛り込んでいます。また、そのための具体的な機会の設定にあたっては、オンラインの活用など、参画する人々にとって便利な手法を場面に応じて検討し、活用していきます。

	<p>ントをやるのもいいかもしれません。また「図書館」も市民交流の場として大きな可能性があると思います。</p> <p>■40情報の収集・発信と多様な主体のまちづくりへの参画の促進■必要なときに、必要な情報を分かりやすい形で得られる環境づくりに取り組みます。</p> <p>「一市民としての自分の声が届く、住民のアイデアに委ねてもらえると実感できる」とき、市民参加は真に実現すると思います。それにはまず市民同士が顔の見える関係を気づくことができる場や、行政とも直接出会う場があればと思います。しかし現在の町内会などは、忙しい若い人(家族)や市外からの転入者にとってよくわからない、魅力のない、年配の男性が役員をやる上意下達のような組織、また単に行政の下請けのような仕事をやらされているイメージで、若い人や新参者が意見を言えない場のように感じられます。(実際、抜けていく家庭もでてきています)人口も減っていくなか、今現在ある様々な団体組織も変わっていくべきときではないかと思います。また今後の(特に若い人)「市民中心の社会づくり」は、オンラインを通じた市民参加の仕組みも有効かと思います。(ネット弱者も参加ができる施策を忘れませんように)以上です。</p>	
15	<p>1. <本編 P8、9> 「まちの将来イメージ」が4点、言葉で示されているが、市民として直感的に、また、実感を持って理解がしづらい。安易なイラストなどは求めないものの、10万人の市民が共有すべきまちの将来イメージとして、動画なども含めて、適切な表現方法を検討してほしい。</p> <p>2. <本編 P19> 「(1) 価値を高め発信するまちづくり1「環境共創」のまちづくり」脱炭素・カーボンニュートラル時代において重要と理解するが、カーボンニュートラルを宣言しようとしているに比して全般的に取り組みが弱く、実現に向けて懸念を持つ。以下の諸点について、検討を加え、本計画にも可能な限り反映してほしい。・取り組みの①に環境学習の推進が来るのは違和感がある。まず、現状を把握し、どのような対策を講じるべきかの戦略が必要</p>	<p>「まちの将来イメージ」については、心ざわしいキャッチフレーズを設定するとともに、計画書のデザインや構成も、伝わりやすいものとなるよう留意します。また、ご意見を参考に、第7次池田市総合計画を含めた効果的な情報発信に取り組みます。</p> <p>環境学習の推進について、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、様々な環境問題について考え解決していくためには、その担い手を育む学習・教育活動がまず基盤として重要であるという考えのもと、「環境共創」のまちづくりにおける取組の方針のひとつとして掲げています。再生可能エネルギー・省エネルギーの普及促進を始めとした2050年カーボンニュートラルの実現に資する具体的な取組については、令和4年度中に組織横断的に連携しながら地球温暖化防止実行計画(事務事業編)の改</p>

	<p>ではないか。・本市のような都市型の自治体では、再エネ・省エネを相当導入してもなお、カーボンニュートラルには到達しないと想定される。どのような対策を講じるべきか、具体は温暖化対策実行計画での議論にゆだねられるものの、PPA モデル・自治体連携なども含めて検討されたい。・上記を実行する上で、脱炭素を強力に推進するための庁内の体制整備が不可欠である。</p> <p>3. <本編 P24~31> 「(2) 子どもと大人の未来を育てるまちづくり」全般的に、池田市の特徴ある施策が見えにくく、現状施策の追認に映ってしまう。隣接市(箕面市など)も力を入れ、昨今では明石市など子育て施策を全面に押し出す自治体も現れている。池田市は非常に住みよくポテンシャルも高いが、現状に甘んじ、それを子育てなどに有効に活用できていない。次世代が住みよい、住み続けたいまちとなるように、市長の強力なリーダーシップとともに、施策、予算、体制ともに十分強化することを強く希望しており、本計画にも可能な限り反映してほしい。</p>	<p>定を行うとともに、第3次環境基本計画に基づき、市民や事業者と共に取り組めるような施策を検討していきます。</p> <p>「(2) 子どもと大人の未来を育てるまちづくり」における施策展開について、第7次池田市総合計画では、本市が計画期間中に取り込むことを網羅的に表現できるように、「主な取組の方針」を掲載しています。一方で、ご指摘のような特徴的な施策展開については、前期基本計画における「施策の重点化」の考え方のもと、毎年度、本市を取り巻く状況を踏まえながら、重点的に取り組むべきテーマを検討していきます。</p>
16	<p>わかりやすい言葉で書かれとても共感・同意できる案だと思いました。以下の箇所について、感じたことを僭越ながら記させていただきました。P1 社会に不安感が広がる背景として「新型コロナウイルス感染症をはじめとする諸課題」とひとまとめにされていますが、国内で頻発する地震等の災害やウクライナ情勢なども「不安感」と無関係ではありません。時流をつかみ取りあえて文字に表すことでこそ、世界的な視野と将来世代への想像力を持ってその諸課題に向き合う市の姿勢が読み取れるということもあるかと思います。P21 取組の方針 1 農園芸の振興の中に、大阪府立園芸高等学校との産官学民協働の視点は盛り込めないでしょうか。大阪府の学校ですが、池田市にあって歴史もあり、スーパーサイエンススクールとして全国からも注目される、話題に事欠かない学校です。P25 現状と課題の中に、校区ごとの児童生徒の人数のアンバランスは含まれないでしょうか。以上です。</p>	<p>ご意見のとおり、国際情勢の変化や頻発する自然災害も社会の不安の要因と認識しています。そのような中、基本構想における「策定の趣旨」では、第7次池田市総合計画の策定時において、本市の市政運営や市民生活に様々な側面から強い影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症を、社会の不安感の背景にある諸課題の例示として挙げています。</p> <p>産官学民協働の視点については、ご意見にあるような農園芸の振興を含めたすべての施策を通じる考え方として、基本構想のまちづくりの進め方における「みんなで取り組むまちづくり」に盛り込んでいます。また、具体的な連携先については、各事業の展開状況に応じて検討を進めていきます。</p>

17	<p>④快適さを実感できる安全・安心なまち</p> <p>池田市は電柱が歩道のど真ん中にあったり、狭い車道のところにあたりととても通りにくく感じる場所が多くあります。最近ではティップネス(石橋)前の横断歩道を渡ったところの電柱が工事で移動され、とても通やすく快適になり嬉しく思っています。市民のみんなに危ない場所や不便な場所を募ってみるのも良いかもしれませんね。子どもからご老人まで安全な待ちになることを願っています。いろいろなご計画ありがとうございます。</p>	<p>まちづくりを進めるにあたっては、ご意見にあるように幅広い人々のお声をお聴きすることで、市政運営の参考にさせていただきます。</p>
18	<p>○全般について全体を通し、表現のゆらぎに注意されたい。</p> <p>「本市」「池田市」「池田」、「新型コロナウイルス感染症」「コロナ」「新型コロナウイルス感染症」、「すべての人が」「誰もが」など。特段の意図がないのであれば、いずれかに統一してはどうか。また、「市民」「事業者」「団体」や「まちの将来像」「めざすまちの将来像」「まちの将来イメージ」などについても、適切に使い分けてほしい。理解しやすい表現となるよう、冗長な表現を避けるとともに、主語又は目的語が省略され過ぎなものに注意されたい。また、同じ表現が連続している箇所や、項目名と内容がなじんでいないものについても、表現を調整してはどうか。加えて、各種用語の使用、項目の順序、省略表現や括弧書きなどについては、その取扱いを統一されたい。取組の記載に際し、「社会情勢に即し～」や「市民ニーズに即し～」といった全施策に通ずるものや、当然と思われる背景については、特に強調したい場合以外は不要ではないか。</p> <p>「現状と課題」において、国や府の動向が示されているものに関し、国や府が取り組むから進めるといった印象を与えているものがある。国や府の動向に関わらず進めるべきものについては、表現を調整してはどうか。「～に努める」という表現になっているものがあるが、可能な限りあやふやでない述語を用いてほしい。全体が「ですます調」であるが、前期基本計画における施策のみが「である調」なので、特段の意図がなければ統一してはどうか。</p>	<p>全体を通し、表現のゆらぎの統一などを行います。</p> <p>基本構想序論の社会の動向における「①人口減少と少子高齢化の進行」及び「②「安全・安心」が重視される社会」については、ご意見を踏まえて表現を修正します。</p> <p>基本構想序論の池田市の特徴における「日本の1/1,000サイズの都市」など、説明が必要な項目については、脚注などへの用語解説や資料編への関連データの掲載によって補足します。「市民の意識・意向」の項目名については、ご指摘を踏まえて修正します。</p> <p>基本構想のめざすまちの将来像における「②子どもと大人の未来を育てるまち」及び施策の柱における「3いきいきと暮らし続けられるまちづくり」については、ご意見を踏まえて表現を修正します。</p>

○基本構想序論について項目 2.1 の①・「人口減少と少子高齢化により」とあるが、少子高齢化が先行し、人口減少社会に至るという表現が正しいのでは。○項目 2.1 の④「安全・安心」は従来から重視されていると思うので、「より重視される」などとしてはどうか。

○項目 2.2 まちの特徴・「日本の 1/1, 000 サイズの都市」が事実かがわからない。○項目 2.2 市民の意識・意向・市民の意識・意向①、④のタイトルは、結果の要約となっており、②、③は調査項目で揃っていない。いずれかに統一してはどうか。○基本構想について項目 1.1「②子どもと大人の未来を育てるまち」について、転入先として選ばれることよりも、安心して子育てができるイメージを強調して表現すべきではないか。

○項目 2.2「3いきいきと暮らし続けられるまちづくり」の「地域共生社会の実現」と「セーフティネットの整備」の順序が逆でないか。また、次の段落との関係から、接続は「そのために」よりも適当なものがあるのでは。

○基本計画について項目 20「教育のまち池田」とあるが、序論では「教育日本一」となっている。同じような文脈なので、どちらかに統一してもよいのでは。